

有限である「言葉」を使いながら、その複雑に組み合わせられた「文字」列たちは、どこまでも増殖し変幻し、まさに無限の様相を呈しています。

たとえば今、文章読本とか名作アンソロジーといった類の撰集を開いてみると、そこには実に多彩な現代文の形がサンプリングされています。もともと固有の文体を持つ作家たちが、それぞれの作品にふさわしい雰囲気づくりのために、表記や字づらにも精妙な工夫を凝らしているからです。ある作家はひらがな

12Q 新ゴシック体L/行間21H送り

たとえば今、文章読本とか名作アンソロジーといった類の撰集を開いてみると、そこには実に多彩な現代文の形がサンプリングされています。もともと固有の文体を持つ作家たちが、それぞれの作品にふさわしい雰囲気づくりのために、表記や字づらにも精妙な工夫を凝らしているからです。ある作家はひらがな

12Q 新ゴシック体M/行間21H送り

たとえば今、文章読本とか名作アンソロジーといった類の撰集を開いてみると、そこには実に多彩な現代文の形がサンプリングされています。もともと固有の文体を持つ作家たちが、それぞれの作品にふさわしい雰囲気づくりのために、表記や字づらにも精妙な工夫を凝らしているからです。ある作家はひらがな

12Q 新ゴシック体R/行間21H送り

やまと歌は、ひとの心を種として、よろづの言の葉とそなれりける

人の心は外界の変化に誘われて万の「言の葉」となって現われる

たとえば今、文章読本とか名作アンソロジーといった類の撰集を開いてみると、そこには実に多彩な現代文の形がサンプリングされています。もともと固有の文体を持つ作家たちが、それぞれの作品にふさわしい雰囲気づくりのために、表記や字づらにも精妙な工夫を凝らしているからです。ある作家はひらがなを多用し、柔らかな女性的な視覚的效果を狙っていますし、反対に別な作家は難読漢字を多用し、そこに煩雑なほどルビをふり、怪奇で重々しい雰囲気をかもし出しています

増殖し変幻し、無限の様相を呈している「文字列」たち

18Q 新ゴシック体B/字間4分アキ

千変万化する日本語の豊かさと広がり

たとえば今、文章読本とか名作アンソロジーといった類の撰集を開いてみると、そこには実に多彩な現代文の形がサンプリングされています。もともと固有の文体を持つ作家たちが、それぞれの作品にふさわしい雰囲気づくりのために、表記や字づらにも精妙な工夫を凝らしているからです。ある作家はひらがなを多用し、柔らかな女性的な視覚的效果を狙っていますし、反対に別な作家は難読漢字を多用し、そこに煩雑なほどルビをふり、怪奇で重々しい雰囲気をかもし出しています

当時から千年以上を隔てた現在、文学表現の中心は「和歌」ではなくなりましたが、その本質である「人の心」と「言の葉」との関係は少しも変わりません。

95Q 新ゴシック体U
100Q 新ゴシック体R/字間ツメ
95Q 新ゴシック体E
95Q 新ゴシック体L
千変万化する日本語
28Q 新ゴシック体B/字間8分アキ
言の葉
そよぐ
言の葉
揺れて